

◇鎌倉街道を辿って～

大槻伸次

＜埼玉・東京方面新田氏所縁の史跡・名勝を訪ねる旅＞（新田義貞公顕彰会）

2019(R1)/9/26～27

新田義貞公顕彰会では、年一回日帰り研修と宿泊研修（県外研修）を隔年毎に実施しているが、今年（2019年）は宿泊研修の年となっている。そこで実施されたのが「鎌倉街道上道沿いの史跡・文化財・名勝を訪ねる」ということで、埼玉県と東京都の鎌倉街道上道沿いを辿る研修旅行だったのである。

1日目「BT 太田」→「畠山重忠公史跡公園と墓所」見学（埼玉県深谷市畠山）→「菅谷館（城址）と史跡博物館と鎌倉街道跡」（嵐山町）→「笛吹峠」見学（埼玉県嵐山町・鳩山町）→「山吹の里歴史公園」見学（越生町）→「高麗神社」参拝（埼玉県日高市高麗本郷新堀）→「巾着田曼殊沙華公園」散策（埼玉県日高市高麗本郷梅原）→宿泊（埼玉県飯能市駅前シティホテル）。

2日目「愛宕神社」見学（埼玉県入間市豊岡）→「徳蔵寺」参詣と「板碑保存館」見学（東京都東村山市諏訪町1丁目）→小手指原古戦場跡（所沢）→「東京都府中分倍河原駅前広場の新田義貞公騎馬銅像」見学（府中市片町）→「分倍河原古戦場跡」（府中市分倍町）は大型バスが入れず通過→「矢口の新田神社」参拝（東京都大田区）→戸越ランプ→首都高環状線→東北道→館林インター→BT 太田。

▼鎌倉街道とは

古道としての鎌倉街道は、鎌倉時代に幕府のある鎌倉と各地を結んだ道路網で、鎌倉幕府の御家人が有事の際に、「いざ鎌倉」と鎌倉殿の元にはせ参じた道である。鎌倉街道の幹線道は全国の国府を通り、街道沿いに守護所も置かれた。特によく知られるのが上道（かみのみち）・中道（なかのみち）・下道（しものみち）と呼ばれる関東地方に広がる主要な幹線道3本で、さらに支線も加わり、現在でも鎌倉街道の名を残すところも多い。鎌倉から武蔵、上野の国府を通り、碓氷峠を超えて信濃へ行く道が「上道」、東海道筋を辿る「京鎌倉往還」、鎌倉から甲斐を結ぶ道「御坂道」、「甲州鎌倉道」、下野の国府を通過して白川関を超える道「中道」、常陸の国府を通過して勿来関を超えて奥州へ行く道「下道」などがあつた。

■写真上は、新田義貞公進撃路と鎌倉街道。



▼新田義貞公鎌倉幕府倒幕へ鎌倉街道進撃

元弘3年(1333)5月8日新田義貞公が鎌倉幕府倒幕の為、新田荘の生品神社にて僅か150騎で兵を挙げ、利根川を越え武蔵国に入り鎌倉街道に沿って進み、5月11日小手指原で最初の合戦をし、12日久米川の合戦(徳蔵寺北約200mの久米川古戦場、東京都旧跡指定)、15日第1次(府中)分倍河原の合戦、16日第2次分倍河原の合戦、18日相州村岡(神奈川県藤沢市)の合戦、21日稲村ヶ崎の合戦に勝利し、5月22日遂に鎌倉の北条氏を滅亡させた。

▼鎌倉街道沿いの史跡・名勝

(今回の研修旅行で辿った順路です)

①「**畠山重忠公史跡公園とその墓所**」深谷市畠山の田園の中にある。畠山氏は桓武平氏良文流畠山氏。重忠氏は平安時代末期～鎌倉時代初期の人。源頼朝の挙兵で当初は敵対(平氏流)したが後に臣従。治承・寿永の乱で活躍。鎌倉幕府創業の功臣と云われる。公園内には、重忠と一族の墓がある。



②「**菅谷館と史跡博物館**」河岸段丘上に形成された館で土塁と郭跡があり国指定の史跡。鎌倉期には畠山氏もここを本拠にした。室町期の菅谷原合戦では山内上杉氏が入り、戦国末期には後北条氏が在城した。西方の雑木林に鎌倉街道が一部残っている。



③「**笛吹峠**」比企丘陵の峠で鎌倉街道上道の要所。新田義貞らの鎌倉進撃路や観応の攪乱時「武蔵野合戦」の戦場となった。新田義興・義宗・脇屋義治らもここで戦ったが敗れた。



④「**山吹の里歴史公園**」室町時代の武将「太田道灌」が農家で雨具を借りようとしたが、娘が山吹を差し出して断った。道灌は意味が解らず憤慨したが、後に「七重八重花は咲けども山吹の実の(蓑)一つだになきぞ哀しき」との古歌を援用したと解り、自らの学問や和歌の素養が無い事を恥じ、学問の研鑽に励んだという説話が伝えられている。

⑤「**高麗神社**」(こまじんじゃ・高句麗神社とも)の由緒は7世紀後半、朝鮮半島の国々は「唐」に滅ぼされたため、人民は難民として日本に渡り、武蔵国に住ませ開拓に従事させた。霊亀2年(716年)5月に「大和朝廷は駿河・甲斐・下野など(上野国は対策済みで除外)7か国の高句麗人1,799人を武蔵国に移し、高麗郡を創設した」(続日本記)という。郡長には元高句麗王族「若光」を任命、開発にあたらせた。死後、徳をしのび郡の守護人として祀った。高麗家は代々神主として受け継ぎ60代という。高麗家住宅、神社本殿、太刀、「大般若経456帖」など多数が、国の重文に指定。朝鮮半島出身者が日本神道の神に祀られているのを知って驚いた。

■写真上・畠山重忠公の史跡公園(深谷市)。■写真中・笛吹峠の石碑(嵐山町・鳩山町)。観光バスがやっと入れる程度の道端にある。■写真下・笛吹峠にある旧鎌倉街道。

⑥「巾着田曼殊沙華公園」高麗川が蛇行して巾着状の土地があり、渡来した高句麗人がここを開発して水田を作り、稲作を伝えたという。現在、そこに流れ着いた彼岸花球根を増やし曼殊沙華公園として整備。高麗川畔のキャンプ場と共に観光地化したという。

⑦「愛宕神社」矢口の渡で討たれた新田義興公の首を愛宕神社に埋めて祀ったと伝えられている（首塚がある）。参拝したこの日、盛大な骨董市が開かれていた。

⑧「小手指原古戦場跡」元弘3年（1333）新田義貞軍と鎌倉幕府軍の戦い、正平7年（文和元年・1352）閏2月28日（南北朝時代）の足利尊氏と新田義宗の戦い（武蔵野合戦）の古戦場跡。

⑨「徳蔵寺」参詣「板碑保存館」元弘3年5月15日、分倍河原の合戦で若くして戦死した「上野国秋間の斎藤三郎、同家行、同宗長ら3人」を供養した長瀬の青石の板碑があり、国の重文に指定。近くに「久米川の古戦場」、八国山に新田義貞が白旗を立てたと伝わる「将軍塚」がある。保存館には義貞公の詳細な記録が掲示されている。

⑩「府中分倍河原駅前広場の新田義貞公の騎馬銅像」

JR 南武線と京王線分倍河原駅に昭和63年府中市によって建てられた義貞公の大きくて立派な騎馬像がある。勇壮な姿で顔は鎌倉方向を向いている。製作は文化勲章受章者の富永直樹氏。駅前ということで観光バスの長居は出来ず、写真タイムのみの見学となった。

⑪「分倍河原古戦場」元弘3年5月15日、16日、多摩川の渡河点である分倍河原・関戸原で行われた北条泰家率いる鎌倉幕府勢と新田義貞の軍勢とが合戦を展開したところが、「分倍河原の古戦場」。義貞らは三浦氏の参戦もあって、激戦の末打ち破った。鎌倉陥落の重大な契機となった。バスが入れないのであっちの方だよ！のみ。

⑫「矢口の新田神社」新田義貞公の第2子義興は父の遺志を継いで南朝の復興に尽力した。鎌倉を攻略したり、武蔵野合戦で足利基氏・畠山国清らの軍勢とゲリラ戦を展開して、足利勢に恐れられた。正平13年（または14年）10月10日、新田義興ら13人は、江戸氏や竹沢氏

らに謀られて、多摩川を渡らされた時、船底に穴をあけられたため浸水し、もはやこれまでと川の中ほどで自刃した。怨霊の祟りが現れたので村人が相計って墳墓を築き祀ったところ鎮まったという。これが「新田大明神」として祀られたのが、矢口の新田神社である。

江戸時代には平賀源内作「神霊矢口渡」の浄瑠璃や歌舞伎が大いに江戸町民の喝采を博したという。今回、我々新田義貞公顕彰会の面々が訪れたら大歓迎され、全員のお祓いとお神酒を戴き（若くてハンサムな神主さんと巫女さんにて）と宝物殿をお開帳してくれて、帰りは記念品とお札を戴き記念写真にも納まってくれた。



最後に

「笛吹峠」、「小手指原古戦場跡」、「分倍河原古戦場跡」などちょっとした石碑等があるのみで、関心がある人でなければその存在すら気付かないほどのものである。そこで、当然のことながら観光地化されていないので観光コースでもなく大型観光バスが入っていくのには無理があり、残念ながら見学を諦めた場所（所沢市有楽町の薬王寺の伝新田義宗公墓所と府中市の分倍河原古戦場跡）もあった。これらの名所・旧跡があるところは、現在では何の変哲もないところであるが、その後の日本の行く末を変えてしまった、すごいドラマが展開された場所だったのである。

また、菅谷館城址史跡博物館（嵐山町）、「山吹の里歴史公園」、愛宕神社と新田義興公の首塚（入間市豊岡 3 丁目）、徳蔵寺と板碑保存館など、新田義貞公（子息の義興・義宗含む）やその関係者にまつわる研究や顕彰において新田義貞公の生誕の地である当、太田よりはるかに勝る立派な施設により研究や保存がなされているなど強く感じた。

この件について、4 年前に新田義貞公が没した地である福井市での研修でも感じられたことである。他に高麗神社（高句麗神社）参拝と、時を得たタイミングで訪れた「巾着田曼殊沙華公園」の曼殊沙華（彼岸花）は満開で、広大な敷地に咲き乱れ様は圧巻だった。（2019 年 10 月 30 日記）



- 3 頁写真上・小手指原古戦場を示す石碑。
- 3 頁写真中・府中市“分倍河原駅前広場”の新田義貞公の騎馬銅像。文化勲章受章者富永直樹氏作。
- 3 頁写真下・東京都大田区矢口の新田神社。
- 4 頁写真左・高麗川畔の巾着田曼殊沙華公園。
- 4 頁写真右・新田義貞公顕彰会卓上幟旗(新田義貞公顕彰会会員宅用)。外用の大型幟は参拝した神社・仏閣に奉納した。